

ひまわりの里基本計画の策定に対する意見募集について

北竜町のシンボリックな一大交流拠点施設「ひまわりの里」は、1989年に誕生して以来30年がたち、ひまわりの里は北竜町の誇りやシンボルとして定着しました。一方、1980年に始めたひまわりによるまちづくりは全国に波及し、各地で行われているため、本町は他の町との差別化を図り、「ひまわりの町北竜町」の名を高めるために、新しい発想とデザインを要求される時となりました。ひまわりの里は、これまでは7月下旬から8月下旬の1ヶ月間でしたが、ひまわりの里全体のあり方を検討し、全国に誇れる新しい魅力を持ったひまわりの北竜町にし、年間を通じて観光客が北竜町に訪れるようにしたいと考えています。

そこで、ひまわりの里基本計画を策定し、計画的な整備を行い、北竜町の価値や知名度を高め、年間を通じて来訪者の増加や宿泊者の増加、ひまわりライスを始めとする北竜町産物の販売拡大、雇用の拡大、移住定住を図り、北竜町の未来の発展の可能性を創造していくために町民の皆様の意見を募集いたします。

頂いたご意見は、今後開催いたします「ひまわりの里基本計画策定委員会」にて検討させていただきますので、様々なご意見をお待ちしています。参考として、4月21日（日）に開催いたしました第1回ひまわりの里基本計画策定委員会にて提起された意見を掲載いたします。

1. 意見の募集期間

第一次集約日 令和元年6月21日（金）まで

（6月30日開催の第2回計画策定委員会で参考とさせていただきます）

最終集約日 令和元年8月16日（金）まで

（8月末日開催予定の第3回計画策定委員会で参考とさせていただきます）

2. 対象者

- 本町に住所を有する者
- 本町に事務所又は事業所を有する者
- 本町に存する事務所又は事業所に勤務する者
- 本町に存する学校に在学する者

3. 意見の提出方法

郵送、メール、FAX または直接文書で提出願います。

なお、電話での受付はできませんのであらかじめご了承ください。

必ず住所、氏名を明記してください。これらが明記されていないものについては、受付できません。

（法人その他団体については、所在地、名称及び代表者氏名を明記してください。）

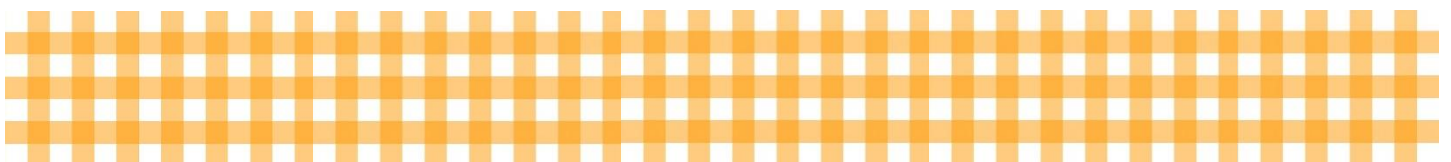
- 郵送/持参 〒078-2512 北竜町字和11番地1
北竜町役場 産業課商工ひまわり観光・林務係 吉田・下浦 宛
- メール h-yoshida@town.hokuryu.hokkaido.jp
- FAX 0164-34-2118

4. 提出されたご意見の取扱い

- お寄せ頂いた意見は、ひまわりの里基本計画を策定する際の参考とさせていただきます。
- ご意見をくださった方への直接の回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
- ご記入いただいた個人情報（住所、氏名等）については、今回募集するご意見を確認する目的にのみ利用させていただきます。

5. 問い合わせ・連絡先

北竜町役場 産業課商工ひまわり観光・林務係 電話 0164-34-2111



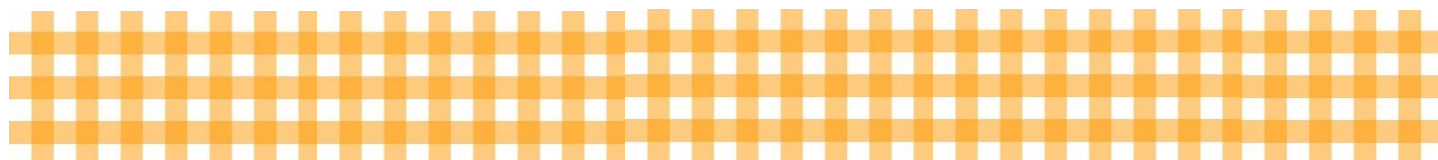
※ こちらの用紙をご提出下さい。

住所

氏名

(公表可・否)

項目	提案内容 (その理由)
新ひまわりの里展望台 への希望や提案	
ひまわり観光センター への希望や提案	
ひまわりの里を含めた 北竜町の通年を通して の来訪者の増加策 (あかるい農法、物産、 体験、ショップ、サービ スなど)	
その他 (何でもアイデアを)	



(参考)

項目	提案内容（その理由）
新ひまわりの里展望台への希望や提案	・（混雑や事故の防止のため）階段の付け方について上り下りを別々にしてほしい
ひまわり観光センターへの希望や提案	・（観光センターも老朽化）世界のひまわりコーナーの方に建設し、その屋上を展望台にするのはどうか。
ひまわりの里を含めた北竜町の通年を通しての来訪者の増加策（あかるい農法、物産、体験、ショップ、サービスなど）	・ひまわりの間を抜けるそり（滑り台）、ターザンロープでひまわりの上を移動する。ひまわりを低い位置から見上げることのできるトンネルを作る等々。（こうしたアトラクションが多ければ子供連れを中心に滞在時間が長くなり、アイス、フルーツ、飲み物の販売量が増えると思われる。） ・夜のひまわりライトアップ（明るすぎないもの）（夜の滞在者が少ないというアンケート結果もあるので） ・「あぜ道を歩く」とか、「ひまわりの種まきや草取り」「ひまわりの刈り取り」などの体験観光はどうか。 ・ふるさと納税で、返礼品を米やひまわり油にするのではなく、田んぼの一区画や、ひまわり畑の一区画のオーナーになり、返礼品はその区画から収穫できるお米やひまわり油を送る（豊作であれば例年よりも多く、不作であれば少しになってしまうというのも面白いかもしれない）寄付した区画が収穫の時期を迎えたら、自ら収穫に来てもらうこともできるようにする。可能であれば苗や種を植えるところから参加してもらう。（農業体験と絡めてもいい。） （ひまわりの時期以外に初めて北竜町を訪れた人は、ひまわりの時期になれば間違いなく北竜町に遊びに来るから、ひまわり以外で訪れるきっかけを提供する）（今 本州で北海道に泊まりで農業体験したいという人が待機だけで2万人いるということを知ったことがある。農業体験をさせてはどうか） ・（1日だけではなく長期滞在できるように）連泊なら宿泊費を安くするとか。家族何人来ても10万円など（長期滞在させるための企画があってもいいのでは）
その他（何でもアイデアを）	・北竜町公認の「明るい農法ファミリー（仮）」を創設して、ファミリーには名前入りのギンガムチェックの名刺を持ってもらう（北竜町のファンであれば誰でもファミリーになれる。ただ町の観光大使というと芸能人とかが務めているイメージがあるから）出張先などで「元気で健康なエネルギーを生み出す、北竜町の明るい農法ファミリーです。」と自慢しながら、名刺を配って北竜町をアピールしてもらう。 ・商品開発のデザインを考えている人、新しいビジネスをしたい人、会社を作りたい人、「何でもクリエイティブ・カフェ」の創設。

